

の類をたぐ古事記萬葉集等皆らふといひて中古
五音相通へばふともふともいふといひの約ちとあはばやといふと
云意やあもふといふよのそや又古註は諏訪明神とを
と也と云はりうねるうや此諏訪の御神の事ハ前此七嶺の
鈴のひよふへく論へり又鷹は蒼鷹と云文字もなり是ハ
白馬をあらうと云ふ極く白くとも此は青色に近き故
なるべし蒼鷹もあつと云ふと又天竺國白王山に
萬物ハ草木に至るまで皆白くて此山より出る鷹の事なども
うねるうや無益の事ども也此歌ハ唯白鷹ハ世に稀こと
いへども我日の本に多きといふ所の中此の白鷹は孔子の